

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立春岡小学校)

学校番号 064

【様式】

学 校 教 育 目 標	人間尊重を基盤とし、豊かな心とたくましい体を持ち、自ら学びを創造する子どもの育成
目 指 す 学 校 像	学校教育目標の具現化を目指して、教職員、子ども、保護者、地域が一体となって教育に取り組む学校
重 点 目 標	1 学びの自律化と個別最適化・探究化の推進による主体的・対話的で深い学びの実現、授業改善 2 個別の教育支援及び相談体制の充実に伴う、一人ひとりに応じた教育を推進する学校づくり 3 学校運営協議会を核として、地域や学校の問題や課題の解決を目指す学校づくり 4 限られた予算の中で教職員のコスト意識を礎に安心して安心な教育環境を提供する学校づくり 5 一人ひとりがチームの一員として心身ともに健康で明るく自信と責任をもって働く職場づくり

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							年 度 評 価	
							実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市の平均正答率と比べて、下回る結果である。特に、両教科とも、基礎的基本的な事項の定着が十分満足できるような状況でない。 ○教務主任や学校課題研究主任が中心となって、調査の結果を受けた本校児童の学習や生活の状況を丁寧分析し、成果と課題をまとめている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査、市の学習状況調査では、例えば設問の問題文の内容を十分に理解する読解力に課題が見られる。 ○全国学力・学習状況調査では、家庭における学習時間について、30 分未満の児童が市や県の2 倍相当で、平日の学習時間に課題が見られる。	・児童の読解力を高める指導力の向上 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり	①研修主任を中心に各学年で学校課題研修を推進し、読解力の向上を視点にした授業研究会を年に三回を行う。 ②全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、教務担当や研修主任等を中心に授業改善の進捗状況を見直す。 ①スクールダッシュボードを活用し、めあてに対して学びを振り返る授業展開を実践する。 ②カリキュラムマネジメントマップを児童、保護者に配付し、家庭との連携強化を図る。	①授業研究を年間三回実施することができたか。 ②全ての教職員で授業改善の方向性を共有する場面を設定することができたか。 ①教室を参観し、毎時間黒板にめあてが提示されているか。また、学びの指標校内平均で 0.5 ポイントアップしたか。 ②児童アンケートで宿題実施状況の肯定的評価の割合が70%に達したか。				
2	〈現状〉 ○学校自己評価アンケートの結果から、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした割合は、それぞれ児童 85%、保護者 85%であった。 ○「Sola るーむ」を利用した児童のうち、進学や進級を契機に教室に復帰した児童が数名見られた。また利用する回数が増加している児童もいる。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因で発生した事故はない。 〈課題〉 ○昨年度、30 日以上欠席した児童数は 27 名であり、一昨年度に比べて減少した。保護者と連携を図れていない児童はいないが、より一層連携を密にして、不登校傾向にある児童の思いや考えを受け止め、支援の充実を図ることが課題である。	・個別の教育支援及び相談体制の充実を目指した学校づくり ・一人ひとりの個性や状況に応じた教育を推進する学校づくり	①定例の教育相談・特別支援教育委員会に加え、必要に応じて会議を開催し、具体的な対応策を検討する。 ②外部講師等を招いて、不登校対応並びに特別支援教育充実に関する研修会を各 1 回ずつ行う。 ①スクールダッシュボード「おはようメーター」を活用し、見取りを補う兆候を早期に発見する。 ②「Sola るーむ」ボランティアと情報交換を行う。不登校児童の保護者どうしで悩みを共有する場を設ける。	①学校が学年会やケース会議などチームとして機能し、効果的に児童一人ひとりを指導・支援している。 ②講師を招聘した研修会を開催することができたか。 ①「おはようメーター」を効果的に活用し、早期に兆候を発見し対応しているか。 ②30 日以上欠席不登校児童数が昨年度に比べて減少しているか。(R6:27 名)				
3	〈現状〉 ○登下校見守りや読み聞かせなど、スクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域学校協働活動の活動が長年継続されている。 〈課題〉 ○学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールとしての取組推進」の項目で、100%の教職員が肯定的な評価を回答しているので、一層教職員を巻き込むことが課題である。 ○学校運営協議会等において、地域のよさや強みを生かせる教育活動は何かを熟議し、オリジナルな教育活動を展開することが課題である。	・学校運営協議会を核とした学校づくり ・地域・保護者に向けて積極的に情報を発信する地域とともにある学校づくり	①学校運営協議会で目指す児童の姿に迫る協働活動を計画、実践する。 ②熟議で得られた課題を踏まえ、次年度の学校経営方針を作成する。 ①ホームページを更新する体制を構築し、1 週間に一度情報発信を行う。また、ホームページに地域との関わりを知らせる項目を新設する。 ②安心メールとスクリレを効果的に併用し正確な情報を素早く発信する。	①問題、課題解決した様子を一つホームページ等で発信することができたか。 ②第 3 回の学校運営協議会で次年度の学校経営方針を説明できたか。 ①ホームページの更新頻度が増加しているか。また、新規のページを新設することができたか。 ②学校評価の「情報を伝えている」の項目で、A 評価の割合が 60%以上に達したか。(R6:48%)				
4	〈現状〉 ○安全主任を中心に管理職、事務職員が連携協力して、教育活動に支障をきたす恐れのある危険箇所等については速やかに対応できている。 〈課題〉 ○児童自らが危険予測や回避の仕方を考えられる学習活動を展開することが課題である。 ○限られた配当予算の中で物品等を計画的に購入し、教育活動の質を高める意識が必要である。	・常に安全で安心な教育環境を提供できる学校づくり ・教職員のコストパフォーマンス意識向上	①安全主任等と連携し日常的な安全点検を確実に行う。また、事故発生前に危険な箇所等は、迅速な修繕を行う。 ②特別活動主任等と連携し、児童どうしの話し合い等を実施し、児童自らも安全で安心な学校づくりに参画させる。 ①教頭や学校事務職員を中心に購入希望物品について必要度や緊急性を踏まえて優先順位を決定し職員に説明する。	①学校評価の「学習環境を整えているか」の項目で AB 評価の割合が 90%に達したか。(R6 保護者 85%) ②児童同士で安全・安心な学校づくりについて話し合う活動を実施することができたか。 ①予算執行状況について、職員会議等で話題提供することができたか。				
5	〈現状〉 ○タブレット端末の効果的な活用について、学校課題研究主任や情報教育主任が中心となり研修を重ね、GIGA スクール構想を積極的に推進してきた。 ○教職員一人ひとりの持ち味を発揮しながら、互いに協力し合って教育活動に取り組んでいる。 〈課題〉 ○ICT の活用について、教員間で取組の差が見られることから、誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○小学校は全教科を担当するが、自分の強みとなる教科や領域に自主的に研修等に取り組むことが大切である。 ○毎日生き生きと児童の教育活動に取り組めるよう勤務時間外の時間を有効に活用することが必要である。	・一人ひとりが孤立することなく、年齢や経験を超えて互いにリスペクトし合うチームづくり ・心身ともに健康で明るく、教員としての誇りを味わえる職場づくり	①全ての教職員に対して、教室訪問や職員室等で行動を観察し、適宜適切な指導と支援を行う。特に、初任者の育成に向けて、2～5 年目の教職員への声掛けを重視する。 ②パワーアップ講座など、自主的に取り組む「研究と修養」について、他の教員の事例を活用して説明する。 ⑤企画委員会等において、学期 1 回程度、業務改善について議題にし、主体的な働き方改革を推進する。 ⑥教職員事故を防止するため、報道等を活用し根拠に基づき適宜指導を行う。	①職員室で教職員どうしの会話が多く、明るい雰囲気で満ちているか。また、教員等の勤務に関する意識調査で肯定的な回答の割合が 85%以上に達したか。(R6:教職員 83%) ②教育研究所が主催するパワーアップ講座に教職員が新規で参加することができたか。(R6:2 名) ①働き方改革を推進する方策を策定し、推進することができたか。 ②教職員の日々の発言や行動において、リスク意識を高めることができたか。				